それぞれの目標を持ってジュニア&ユース世代がレースに挑戦

2025 年度（第 34 回）セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

本格的なセーリングシーズンの開幕を告げる「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」が、静岡県立三ケ日青年の家（静岡県浜松市）で、2026 年 3 月 20～22 日にかけて開催されました。

小・中・高校生のセーラーを対象にした本大会は今回で第 34 回を迎える歴史あるレガッタで、今年もジュニア／ユース世代のセーラー59 名（OP 初級：17 艇、OP 上級：11 艇、ILCA4 級：19 艇、ILCA6 級：12 艇）が全国から集まり、日頃の練習で培ったシーマンシップを存分に発揮して競い合いました。

大会は 3 日間を通じて春の日差しが眩しい好天となった

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団（YMFS）
〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
TEL：0538-32-9827 FAX：0538-32-1112
Yamaha Motor Foundation for Sports（YMFS）
2500 Shingai, Iwata, Shizuoka, 438-8501 Japan
Tel：+81 538 32 9827 Fax：+81 538 32 1112

◆前半 2 日間に吹いた中～強風で全 6 レースが成立

毎年この時期の浜名湖は、移動性高気圧の動きによって天候が日替わりで変化するため、バリエーション豊かな風が吹き、さまざまなタイプのセーラーが活躍できる水面となります。今年は初日の 3 月 20 日と 2 日目の 3 月 21 日に 10～16 ノットの中～強風が吹き、それぞれ 3 レースずつが消化され、2 日間で全 6 レースが成立しました。

最終日の 3 月 22 日は朝から無風でレースを行うことができませんでしたが、各クラスとも今年は上位の成績が安定しており、全 4 クラス中 OP 上級を除く 3 クラスで最終日を待たずに優勝が確定していたため、大勢に影響はありませんでした。

旗が掲揚されると出艇申告。ヨットレースの基本

昨年のインターハイで活躍した井上航汰選手（右）、豊澄隆成選手（左）も出場

◆アジア大会の選考対象となり、2 選手が代表に決定

今年は愛知県でアジア大会が開催されますが、セーリング競技の種目となっている ILCA4 級は本レガッタが選考対象となっており、優勝した森郁人選手（神奈川県ユースヨットクラブ）と女子最高位（4 位）の飯島來海選手（神奈川県ユースヨットクラブ）が、9 月に愛知県蒲郡市で開催されるセーリング競技の日本代表の座を勝ち取りました。

女子最上位を巡る競い合い、ハムリン・たりあ（右）と豊澄真希（左）

アジア大会というハイレベルなレガッタの代表選手も参加する一方、OP 初級にはセーリングを始めて 1 年足らずというビギナーも参加するのが、このレガッタの特徴です。日本代表の椅子を巡って激しく競い合っている同じ海面で、風の力で湖面を走り回るセーリングの楽しさを満喫している初心者もいる――それが、このセーリング・チャレンジカップです。

アジア大会代表を決めた森郁人選手（右）と飯島來海選手（左）

昨年は初級で優勝した岩波由夏選手（中央）は上級にチャレンジして 4 位

大会 2 日目の夕食前には、三ケ日青年の家のミーティングルームで恒例の勉強会が行われました。昨年に引き続き講師は日本レーザークラス協会の廣瀬一貴さん。スライドを使ってヨットレースの基礎を丁寧にレクチャーしていただきました。

　それぞれのレベルで、それぞれの取り組みができるこのレガッタ。来年はどんな顔ぶれが集まるのか、今から楽しみです。

大会 2 日目のレース後に行われた勉強会の様子

【各クラスの優勝者】

OP 級初級優勝
池ヶ谷絢真（小 5／海陽海洋クラブ）

祖父と叔父がセーラーだという池ヶ谷選手。従妹が使っていた OP 級があったので昨年の 7 月に乗ってみた。「おじいちゃんのクルーザーには乗ったことがあったので馴染みはあったんですが、実際に自分で乗ってみたら予想以上に面白くて」毎週末、自宅のある磐田から隣県の蒲郡まで父親に送ってもらって練習に励んだ。「来年の大会では上級クラスにチャレンジしてみたい」と鼻息荒く語ってくれた。

OP 級上級優勝
高橋武尊（小 6／海陽海洋クラブ）

大学ヨット部で 470 級に乗っていたという父親の勧めで 2 年前にヨットを始めたという高橋選手。前回大会は初級クラスに初出場して 3 位。今年は満を持して上級クラスにチャレンジして見事優勝。「浜名湖は風が振れるので、シフトに注意して上るタックをきちんと走れたことが勝因」と冷静に分析。昨年空手の黒帯を取得したが、ヨットが好きなのでヨットに専念したいとのこと。「今年の目標は選考会に出場すること」。

ILCA4 級優勝
森 郁人（中 3／神奈川県ユースヨットクラブ）

小学校に上がるタイミングでシンガポールに移住。7 歳のときに地域のチャンギ・セーリングクラブでセーリングに出会った。シンガポールでは国籍がないと国の代表にはなれな

いので、単身で日本に来てコーチの家に居候しながら練習。4 月からは関東学院六浦高校の寮に入る予定。普段は ILCA6 に乗っているがアジア大会のため今回は ILCA4 にエントリー。「今年はインターハイで同じ高校の先輩の加原クンと勝負です」。

ILCA6 級優勝
加原弦季（高 1／神奈川県ユースヨットクラブ）

高 1 ながら昨年はインターハイと国体で 2 位に入った注目株。父親はスナイプ級の全日本チャンピオン、母親は北京五輪女子 470 級代表というサラブレッド。「正直プレッシャーにはなりますけど、知らない人から声を掛けてもらえるのは有り難い環境だと思います」とあくまでも前向き。強風のクローズホールドとスタートが得意だが「昨年ユースワールドに出て上には上がいることがわかったので、練習あるのみです」。

第34回「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」は、
スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。